

知らなきや損する 歯のはなし

羽生市木村歯科医院HPにて
バックナンバー掲載中!!



木村 匡司

⑦⑦噛み合わせシリーズ(6)

普通の歯の治療の噛み合わせがうまくいっていないと、さらに最先端のインプラント治療は、もっと難しいでしょう。

普通の歯であれば骨に埋まっている歯の間に0・2ミリの歯根膜という膜の上に歯が生えてい

ますので、ある程度の噛み合わせの高さに体が適応しようとしていきます。

限度を超えると揺れてきて腫れたりする事もあります。これは歯周病で歯が揺れたのではなく、噛み合わせのせいで揺れているのに歯周病だと勘違

いしているのです。正しく口全体を調べればすぐに解る事です。

それでは、インプラントはどうか?

インプラントは直接骨とくっつくため、0・2ミリの歯根膜は介在させ

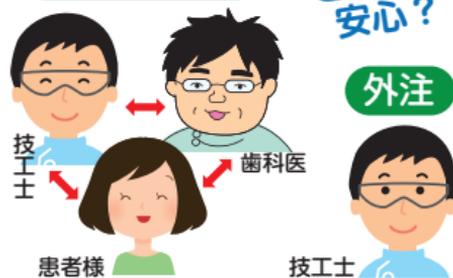
ません。インプラントの上に被せる人工の歯は、噛み合わせをより精密に調整しなければなりません。

なダメージが起こってしまいます。どういう事かというと、インプラントが取れてしまったりか割れてしまったりという事です。そこで当院では、その

どっちが安心?

外注

院内技工所



い状況ではしっかりと体に合ったものを作るのが難しい事もあるからです。

歯科に関する国家資格は「歯科医師」「歯科衛生士」「歯科技工士」の3つがあります。折角3つの資格があるのであれば、歯科医院内で連携して最高の治療に結び付けたいと考えています。

また、製作物の材質にもこだわられます。保健診療内の治療で同じ料金だとしても、使える材料は歯科医師が選びます。かつて外注した製作物が中

国に輸出され、中国の技工所で作られた物に問題がある事がテレビで放映されました。日本で認められていない「ベリリウム」と言う物質が含まれていたからです。これは冠を被せられてしまった後では、皆さん自身も調べようがない問題です。

毎日口の中で舐めている被せものや詰め物の材質にもこだわりたいものです。その材質についても新聞では語れない話もお伝えする健康講座も大好評開催中。☎012

0・2555・4188